

令和7年度使用中学校用教科用図書

選 定 理 由 書

教科用図書宮崎採択地区協議会

【 国 語・書 写 】

中学校学習指導要領「国語」の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【 国 語 】

本採択地区の生徒の実態を見ると、漢字の読み書きについては、基本的な能力を身に付けており、目的に応じた使い分けができている。また、古文や詩の音読、暗唱に意欲的に取り組んでいる。自分の考えをペアや小グループでの話し合いを通して、積極的に伝えることのできる良さがある。一方、長文の読解、文章や資料等からの正確な情報の把握と、論理的に思考して課題を解決することに難がある。また、他者との交流を通して自分の考えを深めたり、説得力のある文章を書く際に必要とされる豊かな語彙力と、根拠や具体例を用いた表現力に課題が見られる。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「光村図書」の教科用図書が適切であると判断する。

- 単元の構成については、「見通しをもつ」で学ぶ内容を確認し、「学びのカギ」を手掛かりに学習を進め、「言の葉ポケット」で学びを深め、「振り返る」で資質・能力の定着を図るという工夫が見られる。
- 単元の配列については、教材の後に、設定した「学びのカギ」を手掛かりに「学びへの扉」に沿って、学習することで、内容の理解と定着を促す工夫が見られる。
- 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学習の目的と習得すべき資質・能力を明示した「学びへの扉」や学習のポイントや系統をまとめた「学びのカギ」が設けられ、生徒が見通しをもち、主体的に自らの学びを確認しながら学習に臨める工夫が見られる。
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、巻頭の「思考の地図」で思考の方法を示し、学習の際に目的に応じて使うことができる工夫が見られる。また、「情報整理や思考のレッスン」が設定され、情報整理や論理的思考の基礎・基本が学べる工夫が見られる。
- 学習効果や使用上の利便性については、「ICT 活用のヒント」において、各領域での ICT の活用場面や参考となる資料を示し、効果的に ICT を活用できる工夫が見られる。

【 書 写 】

本採択地区の生徒の実態を見ると、書写学習への意欲があり、地区内の毛筆書道展への出品も継続的に行われている。生徒は、教科書の手本をよく見て毛筆や硬筆の作品づくりに取り組むことができている。一方、習い事として書道の経験を積んでいる生徒と、学校の授業のみしか筆を握らないという生徒の技量に差が大きい。また、タブレット端末の使用頻度が増えている中、授業で学習した内容を日常生活の中で生かそうとする意識や技能が十分に身に付いていないという課題が見られる。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「光村図書」の教科用図書が適切であると判断する。

- 単元の構成に関しては、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の３段階の学習過程となっており、「学びのカギ」において学習のポイントを具体的な説明とともに視覚的に示し、学習内容を確認しながら学習できる工夫が見られる。
- 単元の配列については、各学年の単元末に国語の教科書と連動した教材を設定するとともに、「コラム」の中で学校生活や日常生活に書写学習を生かすヒントや題材を取り上げることで、習得した力の活用を促すような工夫が見られる。
- 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、毛筆教材の「考えよう」において、自分で課題を発見したり、「コラム」において、文字に関する様々な問いを投げかけ、話し合う活動を設定したりする工夫が見られる。
- 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、３年生の単元末に「三年間のまとめ」を設け、３年間の学習内容を見開きで確認し、自分の課題を確認しながら毛筆に取り組む教材を設定する工夫が見られる。
- 学習効果や使用上の利便性については、取り外して使用できる「書写ブック」により、学びを硬筆に生かすとともに、他教科の学習にも活用することができる工夫が見られる。

【 社 会（地理的分野） 】

中学校学習指導要領「社会（地理的分野）」の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

本採択地区の生徒の実態を見ると、山脈や川などの名称、国名や都道府県名、河川や産地など、基礎的な学習内容の定着率は高い方であり、作業的な学習にも意欲的な傾向がみられる。また、写真や動画などの視覚的教材には関心が高く、本県の農業をはじめ地域素材を積極的に活用しようとする意欲が高い傾向にある。一方で、歴史的分野や公民的分野に比べると、やや苦手意識をもつ生徒が多い。また、統計資料や写真等の資料から、必要な情報を読み取ったり、関連付けて判断して思考したり、自分の言葉でまとめ表現することを苦手とする生徒が多い。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「日本文教出版」の教科用図書が適切であると判断する。

- 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、学習のはじめに、問いの設定、本文、まとめと振り返りのページとなっており、学習の見通しと振り返りができるような工夫が見られる。
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、单元ごとに「自分の考えをまとめよう」が設定しており、既習事項を整理し、地域の課題を思考・判断・表現することができるよう工夫が見られる。
- 地域の願いや生徒の実態等を考慮し、生徒にとって分かりやすいという視点から、「教科書QRコンテンツ」が各所に掲載されており、動画や学習履歴記録シート、確認小テスト等のコンテンツを活用して生徒の自学自習を支援する工夫が見られる。

【 社 会（歴史的分野） 】

中学校学習指導要領「社会（歴史的分野）」の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

本採択地区の生徒の実態を見ると、歴史上の人物やそれに関連する事象について調べることを好む生徒が多く、他分野よりも比較的関心が高い。また、郷土の偉人に関して深く理解している生徒が多い傾向にある。一方で、これまでに習得した基礎的・基本的な知識を活用しながら、写真やグラフ、年表等のさまざまな資料に基づいて、歴史的な事象を多面的に考察したり、自分の言葉でまとめて表現したりすることが苦手な生徒が多い。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「日本文教出版」の教科用図書が適切であると判断する。

- 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、学習のはじめにページ、本文ページ・まとめと振り返りのページとなっており、生徒が問いを立て、学習の見通しと振り返りができるような工夫が見られる。
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各章末に「まとめと振り返り」を設け、時代の特色をまとめさせたり、考察する際に活用できる思考ツールを随所に設けたりするなどの工夫が見られる。
- 地域の願いや生徒の実態を考慮し、生徒にとって分かりやすいという視点から、見開き最後の「確認・表現」で1時間の学習を振り返ることができる。さらに、編末の「まとめと振り返り」では、習得した知識の確認の後、各編・節の問いに答えることで、時代の特色を考えさせる工夫が見られる。

【 社 会（公民的分野） 】

中学校学習指導要領「社会（公民的分野）」の目標

現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

本採択地区の生徒の実態を見ると、社会で起きているさまざまな問題に対する関心は比較的高い。また、基礎的・基本的な学習内容の定着率も比較的良好。一方で、これまでに習得した基礎的・基本的な知識を活用しながら、写真やグラフ、年表等のさまざまな資料に基づいて、社会的な事象を多面的に考察したり、自分の言葉でまとめて表現したりすることが苦手な生徒が多い。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「日本文教出版」の教科用図書が適切であると判断する。

- 社会科公民的分野の目標を達成するために、各章ごとに問いを立て、学習を見通す・問いを追究する・まとめ、ふり返るという流れで構成され、「見方・考え方」を働かせて課題を追究する学習活動ができるような工夫が見られる。
- 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「SDGsマーク」を用いて持続可能な開発目標との関連を図ったり、「明日に向かって」でより良い社会参画を促したりするなどの工夫が見られる。
- 地域の願いや生徒の実態等を考慮し、生徒にとって分かりやすいという視点から、イラストなどを活用し、見通しをもって学習に取り組める単元構成であり、ニュースで取り上げられる話題や生徒にとって身近で考えやすい事例を取り上げるなどの工夫が見られる。

【 社 会（地図） 】

中学校学習指導要領「社会」の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

本採択地区の生徒の実態を見ると、地図帳を用いて、世界の国や都市・地名、日本のさまざまな地名などを探す活動を好む生徒が多く、基礎的・基本的な学習内容の定着率の高い傾向にある。また、関係資料を読み取って行う作業的学習にも意欲的に取り組む様子が見られる。一方で、一般地図やグラフ、写真等のさまざまな資料からの情報を教科書の内容と関連付けて、多面的・多角的に考察したり、自分の言葉でまとめ、表現したりすることが苦手な生徒が多い。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「帝国書院」の教科用図書が適切であると判断する。

- 社会科の目標を達成するために、巻頭では凡例、地図記号や方位、巻末では地形図について解説されており、地図帳の基本的な見方や使い方が示されている。
- 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、世界の各州・日本の各地方の主題図をほぼ同縮尺で提示したり、日本の各地方のページに産業の特徴を捉える統計資料を配置したりするなどの工夫が見られる。
- 地域の願いや生徒の実態等を考慮し、生徒にとって分かりやすいという視点から、学習をサポートする「QR コンテンツ」が設置されており、学習に役立つ地図や統計、動画などの資料を活用して、生徒が問いをもちながら主体的に学習できる工夫が見られる。

【 数 学 】

中学校学習指導要領「数学」の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

本採択地区の生徒の実態を見ると、基礎的・基本的な計算などについては比較的定着しており、意欲的に学習に取り組む姿が見られ、数学の力を伸ばしたいと考えている生徒が多く見られる。一方で、数学的な見方や考え方を生かし、問題を解決したり、自分の考えを数学的に表現したりすることについて課題が見られる。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮し編修されている「啓林館」の教科用図書が適切であると判断する。

- 自分の考えを数学的に表現したり解決したりする力の育成のために、「説明しよう」や「話しあおう」、「まとめよう」で、数学的事象が成り立つ理由を説明したり、他者と自分の考えの違いを理解して正しい考えを伝えたりする活動を設けるなどの工夫がされている。
- 数学科の目標を達成するために、章末に設定されている基本・応用問題に加え、学習したことを自分の言葉でまとめる振り返りの場面を設定することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、節の始めの「節とびら」で、数学を学ぶ意義と有用性を実感し、数学的活動を通して解決の見通しをもつことができるようにするなどの構成・配列の工夫がされている。
- 数学的な見方・考え方を働かせるために、2つの標識「学びをひろげるときに役立つ考え方」「解決するときの考え方」を示すことで、大切な考え方を自然に体得させ、単元末では、まとめる活動を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。
- 学習効果や使用上の利便性を図るため、単元の導入で日常の事象を取り上げたり、学習したことを生活で活用する場面を設けたりして、その節を学ぶ楽しさや意義を実感させる「学習のとびら」を設定するとともに、場面理解や話し合う活動、試行錯誤する活動をサポートするコンテンツ等を用意し、学習内容の理解を促すような工夫がされている。

【理 科】

中学校学習指導要領「理科」の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

本採択地区の生徒の実態を見ると、実験や観察をすることが好きで、協力したり、教え合ったりしながら、科学的に探究しようとする生徒が多いというよさがある。一方、得られた結果を既習事項と関連付けて「根拠をもって説明する」ことを苦手としている生徒も多い。また、自然体験の不足から日常生活における自然現象への興味・関心の低下も課題である。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編集されている「啓林館」の教科用図書が適切であると判断する。

- 理科の目標を達成するために、単元の導入において、「学びの見通し」「学ぶ前にトライ！」を設け、日常生活と知識を関連付けて考えることのできる問いを設定し、課題意識をもって学習に取り組むことができるようにしている。また、同じ問いを、単元末に「学んだ後にリトライ！」として設け、科学的に探究できるような構成・配列等が工夫されている。
- 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に1つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート」で生徒の主体的な学習を支援している。また、「探Q実験」についての「発表スライド」や「Action活用してみよう」等、発表や活動の場面を設定することで学びを深めるような工夫がされている。
- 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、つまずきやすい内容を「例題」で解説し、練習問題や解説動画を用意することで、生徒の学習を支援している。また、とらえ違いしやすい事項は「なるほど」で正しく理解できるよう二次元コード等で情報を示すなどの工夫がされている。
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、これまで学んだことから生じた疑問を「みんなで探Qクラブ」で解決していく過程を通して、日常生活にある科学を意識できるようにし、探究を継続・発展させられるような工夫がされている。
- 学習効果や使用上の利便性を高めるために、ICT機器の具体的な活用場面、方法が明記してある。また、章ごとの「Review」の中で、学びの過程の振り返りを意識できるような工夫がされている。
- 日常生活における自然現象への興味・関心を高めるために、身近な生活や日本の伝統文化、国際的な問題に関係する話題等を紹介し、理科の有用性や職業への憧れ、郷土愛を感じられる工夫がされている。

【 音 楽 】

中学校学習指導要領「音楽」の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

【 音 楽（一般） 】

本採択地区の生徒の実態を見ると、音楽を好む生徒が多く、特に合唱をはじめとする表現活動に意欲的に取り組めるといふよさがある。一方で、音楽のよさを考える場面における思考力、表現力が十分身に付いていないという課題がある。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「教育芸術社」の教科用図書が適切であると判断する。

- 「思考力・判断力・表現力」「知識」「技能」という教科の資質・能力と各教材との関連を一目で確認することができるように、見開きのページで示す工夫が見られる。
- 各教材ページ端に示された「音楽を形づくっている要素」を、表現や鑑賞の学習活動において焦点化して学習できるようにしたり、「学びのコンパス」において、気付いたことや感じ取った雰囲気等をまとめ、意見が交流できるようにしたりといった「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫が見られる。
- 「思考力・表現力」を育成するために、「学びのコンパス」のページにおいて「注目するポイント」が示されており、生徒が音楽を形づくる要素に着目し、主体的に表現活動に取り組める工夫が見られる。

【 音 楽（器楽合奏） 】

本採択地区の生徒の実態を見ると、器楽の学習に意欲的に取り組む生徒が多いものの、演奏表現を深める工夫をする場面における思考力、表現力が十分身に付いていないという課題がある。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「教育芸術社」の教科用図書が適切であると判断する。

- 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、楽器の音色や響きを生かした音楽文化と豊かに関わり、音楽を愛好する心情を育み、日常生活の中で触れる機会の少ない和楽器を演奏する楽しさや喜びを味わえるよう、「楽器で Melody」で、生徒になじみのある楽曲の充実が見られる。
- 範奏や伴奏の音源が視聴できる二次元コード、奏法を確認できる写真などを示すといった工夫が見られたり、「楽器で Melody」で、演奏する楽器を選択することができるようにしたりするなど、「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫が見られる。
- 「思考力・表現力」を育成するために、「アンサンブルセミナー」のページで、生徒が主体的に考え、創意工夫して表現するためのポイントを具体的に示す工夫が見られる。

【 美 術 】

中学校学習指導要領「美術」の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

本採択地区の生徒の実態を見ると、ものの見方が素直で、新しい表現やいろいろな素材・技法などに触れた際、興味をもって学習に取り組むなど、表現及び鑑賞の活動に対し、好奇心を抱いている生徒が多く見られるなどのよさがある。一方で、生活経験の不足から、刃物などの道具の扱い方や技能が十分身に付いていないことや、鑑賞の機会が少ないなどの課題も見られる。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「日本文教出版」の教科用図書が適切であると判断する。

- 美術科の目標を達成するために、表紙や巻頭の見開きページの作品から題材につなげていくことで美術の学びのつながりを意識させるとともに、各学年の発達の特性に即した題材の構成・配列の工夫が見られる。
- 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるため、各題材の学習で、必要な知識・技能が習得できるよう、各巻末に材料や用具の取扱いについてのまとめがある。また、題材導入時に二次元コードを配置し、生きて働く知識及び技能を習得できるような工夫が見られる。
- 各題材ページでは、表現と鑑賞の一体化を意識した構成になっており、表現段階で表現のヒントや造形的な視点としての問いかけが示されるなど、授業の流れを考えやすく、生徒に考えさせる工夫で多様な展開も期待でき、学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。また、本地区生徒の実態を考慮し、小刀やのこぎり、電動糸のこ盤の使い方、美術館の機能や役割への理解を深めるための全国の美術館へのリンク先があり、事故防止について具体的に学び、生徒が主体的に美術館等を活用できるような工夫が見られる。

【 保 健 体 育 】

中学校学習指導要領「保健体育」の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

本採択地区の保健体育における生徒の実態として、よさとしては、部活動やスポーツクラブ等の加入率も高く、運動を週3回以上実施する生徒も多いことや、朝食の欠食や睡眠不足など生活習慣の課題と健康を関連付けて指導する学校が多く、生徒がその重要性を認識し、行動に移している傾向が見られることなどがある。しかし、その一方で運動が好きで積極的に運動を行っている生徒の割合は高いものの、運動を苦手と感じている生徒や運動をしていない生徒の二極化の傾向が見られるなどの課題も見られる。

本地区の生徒の実態を踏まえると、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「学研」の教科用図書が適切であると判断する。

- 単元の配列に関しては、小單元ごとに「ウォームアップ」「エクササイズ」「学びを生かす」の3段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、「探究しようよ」で課題解決学習を取り入れ、より深まった学びにつながるような工夫が見られる。
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小單元ごとに「学びを生かす」を設定し、学んだことを活用し、今後の生活に生かすための実践力を育む工夫が見られる。
- 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き2ページに収め、ゆったりとした紙面になっており、大きな判型の資料を掲載することで認識しやすく、本文の内容を資料から読み取りやすいなど、学びやすさを高める工夫が見られる。また、「探究しようよ!」「章のまとめ」で実生活につながる内容が組み込まれているとともに、本文にユニバーサルデザインフォントを採用し、イラスト等の配色を淡い色に統一することで、使いやすく分かりやすい工夫が見られる。

【 技 術・家 庭（技術分野） 】

中学校学習指導要領「技術・家庭(技術分野)」の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

本採択地区の生徒の実態を見ると、「ものづくりに高い関心を示し、作品作りに意欲的に取り組む」というよさがある。一方で、「加工技術等の習得につながる体験や経験が不足していること」や「生活や社会における事象を技術との関わりの視点で考えることや実践すること」などの課題も見られる。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編集されている「開隆堂」の教科用図書が適切であると判断する。

- 技術分野の目標を達成するために、生活や社会の中にある技術に気付かせながら基礎・基本を習得させ、「問題解決→実習例→学習のまとめ」という一連の流れの中で学習ができるようにし、技術の見方・考え方を身近な製品の特徴から気付かせるなどの工夫が見られる。
- 「知識・技能」を習得させるために、作業の手順、植物の育成法、工具の使用法等を写真や動画にまとめ、「CHECK」で知識・技能の習得を確認する工夫が見られる。
- 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に4段階の問題解決学習の流れを説明し、製作の例を数多く提示してある。また、「やってみよう」の発問で協働学習をしやすくする工夫が見られる。
- 「学びに向かう力・人間性等」を育成するために、「Interview」のページにおいて仕事の特徴ややりがいを紹介することで、興味・関心を高め、将来の職業の選択や生き方との関わりについて考えることができるような工夫が見られる。
- 各分野の終末の「学習のまとめ」では学習内容の振り返りに役立てたり、「Interview」では各分野ではたらくプロの仕事内容や働く目的等、キャリア教育の観点も盛り込まれたりするなどの工夫が見られる。

【 技 術・家 庭（家庭分野） 】

中学校学習指導要領「技術・家庭（家庭分野）」の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する 資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする 実践的な態度を養う。

本採択地区の生徒の実態を見ると、ものづくりへの関心が高く、製作・実習や体験活動に意欲的に取り組む生徒が多い、本教科の学習内容が生活に役立つと認識している生徒が多いなどのよさがある。一方で、実習における技能面の個人差や自分の生活を振り返り、自分で課題を見付け工夫や創造しようとする意識や実践力などの課題も見られる。また、防災や消費生活に対する意識や実践力についても不十分な傾向が見られる。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「開隆堂」の教科用図書が適切であると判断する。

- 構成・配列について、導入から振り返りまでを、現実の等身大の中学生と重なるエピソードや、学習者の思考を揺さぶる問いを随所に盛り込むことで、より自分事として問題を見付けたり、解決に努めたりして、よりよい生活の実現に向け、自ら考え判断していけるような力を身に付けることのできる工夫が見られる。
- 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、内容を厳選して的確に記述し、調理実習では「調理方法 Q&A」を取り上げ、科学的根拠に基づいた理解を深めることができるように工夫されている。さらに、「生活の課題と実践」を巻末に項目を立て、学習で習得した知識及び技能を実生活で活用しながら定着を図ることができるよう工夫されている。
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、自分事として捉えた課題をもとに学習を進め、編末の「学習のまとめ」では、記述を含む振り返りの問題を設定し、自らの考えをまとめ、表現する力を付けることができるような工夫が見られる。
- 「技能面の個人差」に対応するために、製作の基礎・基本を、写真での説明に加え QR マークを読み取ることで、いつでも動画で確認できるような工夫が見られる。また、「防災」「消費生活」への実践力を高めるために、随所に「防災マーク」「消費・環境マーク」を付けたり、住生活では、「わたしたちの防災～防災があたりまえの生活に～」として詳細な資料を示したりすることで意識が高まるような工夫が見られる。

【英 語】

中学校学習指導要領「外国語」の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

本採択地区の実態を見ると、よさとして、素直に学び、新文型等を習得しようとする意欲が高い。また、単語や文型などの基礎的な学習内容についても、概ね、高い傾向が見られる。加えて、読むことやALT とのコミュニケーション活動等にも積極的に取り組むことができている。しかし、自分の考えや思いを話したり、書いたりする表現力には大きな個人差があることや、やや長めのまとまった英文を読む力が十分に身に付いていない状況が見られる。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「東京書籍」の教科用図書が適切であると判断する。

- 外国語科の目標を達成するために、各Unitを「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」などで構成し、複数の単元のまとめである「Stage Activity」に向けて、スモールステップで積み上げながらゴールにつなぐ工夫がされている。
- 各単元の「扉」にある「GOAL」で単元を貫く問いを明確にすることで題材への興味を高め、単元末の「Unit Activity」では、各パートの「Activity」で用いた表現を生かして、目的・場面・状況を意識した言語活動に取り組むことができる工夫が見られる。
- 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「単元を貫く問い」である「Unit Question」を設定し、パートごとのスモールステップとして設定している「Activity」と「Unit Activity」に取り組むことで、単元を通して思考を深めていくといった工夫が見られる。
- 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Unit」の活動目標が明確に示してあり、学習する前にPreviewを聞くことで、目的・場面・状況を想起しやすくしている。「Read and Think」ではまとまった文を読み、自分の考えを表現することができるといった工夫が見られる。
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、Unit後の「Stage Activity」においては、目的・場面・状況を明確に設定し、ペアやグループで伝え合う言語活動を設定しやすい工夫が見られる。

- 学習効果や使用上の利便性については、「Key Sentences」が本文と同ページに掲載されていることにより、本文中の重要表現を確認しやすくなっている。また、Round1、2で読解のポイントを絞って英文を読む活動が段階的に設定されており、生徒の読解力育成につながる工夫が見られる。
- 地域の願いや思い、生徒の実態等を考慮すると、単元ごとにUnit Activityが設定され、学習した内容を基に無理なく自分の意見や考えを話したり、書いたりすることができる工夫が見られる。

【 特別の教科 道徳 】

中学校学習指導要領「特別の教科 道徳」の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤なる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

本採択地区の生徒の実態を見ると、決まりを守る、挨拶や返事ができるなど、基本的な望ましい生活習慣が身に付いている。また、与えられた役割を最後まで果たそうと努力する生徒が多いことや、ボランティア活動に積極的に参加する生徒が多いなどのよさがある。一方で、自分の生き方や考え方について周囲と話し合う際、自分の思いや考えを表現することへの抵抗感から、他の価値観と触れ合う中で考えを深められないことがある。また、他者の考えを理解することができず、相手の気持ちを考えることができずに発言したりするなど、時と場に応じた言動ができないなどの課題も見られる。

このような実態を踏まえ、上記の目標を達成するために、本採択地区においては、次のような点に配慮して編修されている「日本文教出版」の教科書用図書が適切であると判断する。

- 道徳科の目標を達成するために、発達段階に応じた学年ごとのテーマ「であう」「みつめる」「ひらく」の設定と、全学年共通で「いじめと向き合う」「よりよい社会を考える」の2つのテーマをユニット化することで、系統的に多様な学びができるような構成・配列の工夫が見られる。
- 主体的・対話的で深い学びができるように、「考えてみよう」「自分に+1」では発問を1つに精選し、ねらいを焦点化して考えを深めさせ、「あすへのメッセージ」では生き方について自分を見つめ直させる工夫が見られる。
- 多面的・多角的な考え方ができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適している教材において、教材末に、「学びを深めよう」を設け、他者とともに話し合うことで納得解について考えられるようにする工夫が見られる。
- 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳科での学びを始めよう！」や「ミニ教材で考えてみよう」を設けることで、生徒にとって学びの見通しがもてるような工夫がなされている。また、別冊「道徳ノート」の「自分にプラスワン」で、この授業で学んだことを前向きに生かす見方・考え方を記入できるような工夫が見られる。生徒にとっての分かりやすさについては、学びのキーワード、ねらいに迫る発問、授業後の学びを活かす発問の3つの学習要素を全教材で設けることで、生徒が学習の流れをつかみやすくするような工夫が見られる。
- 地域の願いや思い、生徒の実態を考慮すると、生き方や考え方について議論し考えを深められるようにするために、「考えてみよう」では、ねらいに迫るための発問例を示しながら、対話を通して自分の心を見つめ、広げるなどの工夫が見られる。